



## きらきら☆いわてっこ

幼児教育専門員による訪問支援が6月から始まりました。きらきら☆いわてっこでは訪問した園のキラッと光る子どもの姿や園の取組を紹介していきます。

### 「わくわくこどもまつり！」～行事に向かう5歳児の姿から～



#### イメージをふくらませる環境

また今年も楽しみにしてほしいという保育者の願いから去年遊んだこどもまつりの写真を保育室に掲示しています。

#### お互いにアイデアを出し合っ

年長さんは、こどもまつりに向けての活動真っ盛り。去年の年長さんが作った的当ての台を目にすると、今度は自分たちが主役！とばかりに張り切ってお化けの絵を描くなどの飾りつけを始めました。また、当てたお客さんにキャンディーをプレゼントしよう話し合い、キャンディー作りも始まりました。遊びながらより楽しくしていこうとする姿に、こちらまでワクワクしてきました。



#### 試行錯誤を繰り返して

的に当てた時に、上手くお化けがクルクル回るようにするにはどこに当てるといいか、何度もボールを投げて試す姿が見られました。

#### 受け継がれる文化を感じて

「的当ての台」のように、行事で代々受け継がれているものの中に、その園ならではの文化を感じるとともに、「大きい組へのあこがれ」が、子どもたちをさらに成長させることも感じました。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「豊かな感性と表現」の育ちと共に、仲間と一緒に「協同性」も発揮してにぎやかに取り組む姿に、本番のこどもまつりも行ってみたくなりました。

## 訪問支援後のアンケートより..

### アドバイスにより保育者が安心できた!

日々の保育において情報共有をしているが、客観的視点からお話を伺い、成長のためのサポートのアドバイスをいただき、保育者の安心にもつながった。

### 振り返りって大事!

PDCA サイクルの改善について、見つめ直す機会になった。やってみてこれでよかったのか?という振り返りが、薄かったことに気付かされた。今後意識していきたい部分になった。

### 園としての課題がはっきりした!

園外の幼児教育専門員の方の見方、捉え方をお話頂いたことで、私たちが目指す方向性の確認、子ども理解と年齢に応じた関わり方や週案の記入の仕方など、具体的な今まで気付かなかった学びができた点が大変よかった。

### 保育に自信が持てた!

一緒に保育を見て頂き、見ながらもご助言頂いたりし、すぐに保育に活かした場面もありました。また、保育や環境構成の良さも見て頂き日常の保育に自信を持つ機会になりました。更に「こうするといよいよ」という助言を今後活かして行きたい。

### 「その子が一番」という思いを大切に!

子どもと生活する中で、自分が困っていることに目がいつていることに気付いた。3歳児なりののびのびとした面を大切にしながら日々保育を行っていきたいと思った。また、一人一人の育ちを理解し、他の子と比べるのではなく、「その子が一番」という思いを持って子どもたちと関わっていききたい。

### 記録は子ども理解のために!

日誌の記入の仕方、まとめ方について詳しく学びました。記録するだけでなく、その子がその場面でのどのように感じていたのかを考えて記入することで、子ども理解につながることを確認できたので、今後役立てていきたい。

## こどもが まんなか「いわてのWAっこ」に込めた思い

いわて幼児教育センター、市町村教育委員会及び児童福祉主管課、小学校、県就学前教育施設所管部局、関係諸団体、幼稚園・保育所・認定子ども園等の関係機関が、「こどもを真ん中にして、就学前教育の質の向上を目指して未来を担う子どもたちを育てていきましょう」という思いを込めて名付けました。今後は、この紙面を通して情報発信していきます。

今年度開所した「いわて幼児教育センター」について紹介します。

#### <体制>

- 幼児教育センター長（義務教育課長兼任）
  - 指導主事（2名）
  - 行政職（1名、義務教育担当）
  - 幼児教育専門員（2名）
- ★各教育事務所（6か所）の指導主事との連携

#### <役割>

- 県内の幼児教育推進体制の構築
- 3つの機能を活かした就学前教育の向上（研修、訪問支援、調査研究・情報共有）

県内各地の園の先生方、そしてその先にいる子どもたちの Well-being(幸福)をめざしていきます。